
卒業生寄稿

キッカケは白衣

大 石 茜

横浜市立日吉台西中学校

はじめに

私は、中学校の理科の先生の白衣姿に憧れて科学の道に進みました。そして現在、白衣を着て毎日授業をしています。教員になって4年目。まだまだ未熟な私ですが、今回このような機会をいただきましたので、教員になって感じたことを書きます。少しでも後輩のみなさんの参考になれば幸いです。

夢のキッカケを見つける場所

「中学校は“夢のキッカケ”を見つける場所だ。」という話が今でも心に残っています。これは教員採用試験の説明会で先輩教員が話していたことです。“夢”と言ったら大げさかもしれませんが、大人になった今の仕事や趣味は中学時代の経験からつながっていると感じ、私もそう考えるようになりました。

先に述べたように、私が教員になったキッカケは白衣です。中学生のときの白衣への憧れが、今の私につながっています。また、趣味のギターやマンガ、アニメも中学時代からずっと好きなものです。きっと皆さんも中学時代の経験が今につながっているのではないのでしょうか。中学生がそのような大切な時間のほとんどを過ごすのが、中学校です。だから中学校は“夢のキッカケを見つける場所”なのです。この話を聞いた時、私は中学校教員の魅力をとて強く感じました。

中学生は多感でとても難しい時期ですが、3年間の彼らの成長は目まぐるしく、その成長を感じた瞬間はとても感動します。その成長の中で生徒たちは自分の道を見つけ、卒業していきます。普段の昼休みの過ごし方を見ているだけでも、友達と話す生徒、運動をする生徒、本を読む生徒、お昼寝をする生徒などいろいろいます。生徒たちはそれぞれの中学校生活の中で、大人になった自分につながるものと、気づかない間に出会っているのかもしれない。

そんな生徒たちの中に、私のような人が現れたら嬉しいなと思い、私は毎日白衣を着て授業をしています。

生徒の存在

3年半教員をして感じていることは、生徒の存在の大きさです。これまで毎日生徒のことで一喜一憂し、過ごしてきたからです。教員は学級指導、教科指導、部活動指導など、さまざまな場面で生徒と接します。その中でそれぞれの生徒たちのことで悩み、喜び、元気をもらっています。

学校で仕事をする中で一番の存在は、やはり、自分のクラスの生徒です。授業はもちろん、朝と帰りの学活、昼食、掃除という基本的な生活をともに送ります。生活の中で問題が発生することもありますし、悩むこともたくさんあります。しかし、日々の何気ない出来事や、たわいもない会話をしながら、安心して過ごすことができるのも自分のクラスです。行事のために時間をかけて取り組み、失敗した悲しみや辛さ、成功した喜びや達成感などの感動を共有できるのもクラスです。たくさん悩んだ分、感動も大きいものになります。その感動が、教師の一番のやりがいであると感じています。

また、中学校の教員が主に生徒と接する時間は、日々の授業です。授業では生徒たちの反応で自分の授業の出来がすぐにわかります。丁寧に準備すればするほど生徒たちの反応は良く、自分も楽しく授業をすることができます。毎回の授業の中で、「今日は上手くいった!」「今回は上手くいかなかったから修正しなければ…」と振り返りながら授業を行っています。私は負けず嫌いな性格なので、上手くいった授業よりも、上手くいかなかったときの方がより一層やる気になります。次に向けて資料や教材を準備して、リベンジをします。そして、生徒たちがいきいきと課題に向かっていく姿を見て達成感をえます。このように自分のやる気が維持されるのも生徒の存在のおかげです。

さらに、部活の生徒たちにはいつも元気をもらいます。私は女子バスケットボール部の顧問をしているのですが、元気がないとき、疲れているときに、無我夢中にボールを追いかけて、元気よくプレーしている彼女たちの姿を見ると、不思議とこちらまで元気になり、「私も頑張らないといけない」と励まされたような気持ちになるのです。

ある集団がうまくいかないときに、ほかの集団から励まされ、また頑張ろうという気持ちを取り戻す。そうして生徒たちに支えられ、それぞれの指導を続けることができます。大変なときも、授業や部活の中で、生徒たちと接していると自然と元気が出てきます。中学生には不思議なエネルギーがあるようです。そして、生徒たちからそのエネルギーをもらって、今までやってこられたと強く感じています。だから私は、頑張る力をくれる生徒に感謝し、大切にしていきたいと考えています。

コミュニケーションの大切さ

私が子どもたちと今の関係を築くことができるのは、いつもフォローしてくださる先輩の先生方や、理解をしてくださる保護者の方々の助けのおかげです。そのような方々とのコミュニケーションを豊かにしていくことが、教員をしていく中でとても重要なこと

であると思います。

職員室では同じ学年の先生や、クラスの教科担任の先生方と、頻繁に情報の共有をしています。情報を共有することで、自分が気づかなかった生徒やクラスの小さな変化や、普段とは違うようすを知ることができ、生徒との会話のキッカケや、クラスをより良くするための指導のヒントを見つけることができます。また、自分が悩んでいるときは、いつも適切なアドバイスをくれます。自分がうまく指導できないときに、他の先生からも違う方法で伝えてもらい、フォローに入ってもらうことで、生徒にきちんと思いを伝えられることもあります。一人では、上手く指導できないこともたくさんあります。その時に助けてくれる先輩方がいることはとても心強いです。

さらに、先輩の先生方は同じ生徒たちを指導している教員としての思いを共感し合えるという点でも、大きな存在です。他の先生方と今日の面白かったことや嬉しかったこと、上手く指導ができず、悔しかったことなどの生徒の話をするのは、日々の楽しみでもあります。

保護者の方々からバックアップをしていただけることも非常に心強いです。学校と家庭の両方で同じように生徒を見守ることがとても重要だからです。保護者の方とコミュニケーションをとることで、学校以外での生徒のようすを知ることができます。お会いしたときに話しかけていただき、生徒だけでなく、私自身のことも気遣ってくださる保護者の方々にはとても感謝しています。中には部活の練習試合の審判や、指導の手助けをしてくださる協力的な方もいます。保護者の方々とのそのようなかわり合いは、教員としての力となり、自信をもって指導ができるようになるので、保護者の方々の存在はとても心強いです。

このように、私が中学校でさまざまな生徒たちと過ごしていく中では、多くの方々の存在が必要不可欠でした。ですから、そのつながりをつくっていくためにも日々のコミュニケーションはとても大切なのです。

おわりに

私の今の教員としての環境はとても恵まれています。いつも一緒に楽しく授業や部活ができる生徒、支えてくれる先輩方、未熟な私の指導を理解してくださる保護者の方々…みなさんとの出会いは私にとって特別なものです。

そして、今の私があるのは、北里大学の先生方の指導のおかげで採用試験に受かったからです。北里大学理学部教職課程の指導はとても手厚いものでした。採用試験のときは厳しい指導もあり、心が折れそうなこともありましたが、先生方がそのように本気で取り組んでくださったからこそ、私は教員になれたのだと確信しています。

教員を目指している皆さん。北里大学理学部の教職課程センターには、いつでもあなたの相談にのり、アドバイスをくださる先生方がいらっしゃいます。採用試験に自分一人の

力で挑むには限界があります。先生方や同期の仲間と共に挑むことで目標を実現できることもあります。目標の実現が叶い、将来一緒に働けることを楽しみにしています。

最後に、お世辞にも真面目とは言えなかった私を4年間指導してくだり、教員の道に進ませてくださった北里大学理学部の先生方、教職課程の先生方、本当にありがとうございました。また、今回このようなかたちで母校に貢献する場を与えていただいた教職課程センターの皆さまに感謝申し上げます。